

1983 年日本海中部地震災害の新聞記事による追跡*

秋田大学地域防災減災総合研究センター 水田 敏彦
 北海道大学 鏡味 洋史

1. はじめに

1983 年日本海中部地震は秋田県沖で発生した M7.7 の地震であり、今年 2023 年 5 月 26 日に発生から 40 年を迎える。被害は秋田県を中心として隣県の青森県や北海道、特に津波被害に関しては京都府や島根県など更に遠隔地におよび、地震直後から約 1 ヶ月程度に亘っては、人的・物的被害、震災対策、経済・社会的影響、復旧・復興、市民生活など震災に関する様々な情報が新聞を通じて報道された。現在でも各方面で震災の記憶や教訓を後生に伝える活動が行われているものの、震災から 40 年が経過し災害の情報は限られたものとなっている。小論では震災から翌年以降の新聞報道に着目し、どのように変化し関心が高まるのか明らかにする。

2. 新聞記事の収集

朝日新聞記事データベース「朝日新聞クロスサーチ」¹⁾ を使用し記事を収集資料とした。抽出にあたっては、見出し、本文、補助キーワードに『日本海中部地震』とあるものだけを収集した。記事データの収録期間は本紙が 1984 年 8 月～2019 年（※本紙テキストは 2022 年 11 月 3 日現在 2020 年以降未収録）、地域面は秋田版の収録開始が 1997 年以降であり 1997 年以降を対象とした。なお、記事内容を確認し、日本海中部地震と関係のない記事 9 件は除外した。

3. 記事数の推移

地震から約 1 年後の 1984 年 8 月から 1 年当たりの記事数の推移を図 1 に示す。地震翌年から 9 年目迄は減少し、10 年目の 1993 年には 46 件と 10 倍程度となっている。その後件数は減るものの報道は続き、他地域の大地震発生直後と 20 年、30 年の節目に関連記事が多くなる。

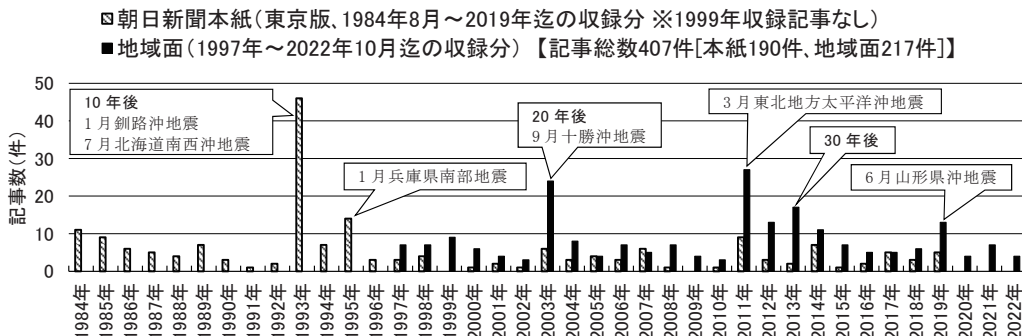


図 1 1983 年日本海中部地震に関する 1 年当たりの記事数の推移

*Tracking of the 1983 Nihonkai-Chubu Earthquake Disaster by Newspaper Articles by Toshihiko Mizuta and Hiroshi Kagami

4. 新聞記事の傾向と特徴

発災から翌年以降の新聞報道について、記事の内容は地域面では地震後の社会の対応（行政対応、社会対応など）が最も多く、被災経験者の声も多く記載されている。地域面の記事は秋田版（118件）と青森版（34件）が多い。一方、本紙では解説情報（一般的地震解説、他の地震との比較）の記載が多く、その他、社説（災害の教訓や防災事情など）や識者見解などがある。1983年日本海中部地震に関する周年記事、他地域の大地震発生直後に現れた比較記事が記載されているものを以下に示す。

4.1 周年記事

収集した新聞記事について、地震から15年（1998年）以降から39年（2022年）までの24年間の周年記事の見出しを整理し表1に示す。秋田版と青森版の記事を区別し、青森版は[]内に示している。周年記事は長期的、継続的に掲載され、秋田版の記事総数118件のうち周年記事は約半数の58件と最も多い。秋田県では日本海中部地震が発生した5月26日を「県民防災の日」と定めており、県民防災の日前後に関心が高まり記事が増加し、各地で行われる地震や津波を想定した避難訓練の様子が多く報じられている。また、防災訓練の参加者減少の話題や震災の風化を心配する声、その他、被災経験者の震災の記憶についても継続的に報じられている。記事の内容は津波に関する話題が圧倒的に多く、日本海中部地震により各地で発生した液状化現象、その他、建物の耐震性に関する記事は非常に少ない。青森版については記事総数34件のうち周年記事は10件となっている。青森県については、深浦町が日本海中部地震発生の5月26日を「深浦町防災の日」と定め防災訓練を実施しており、深浦町を中心として防災訓練の様子や被災経験者の震災の記憶が報じられている。

4.2 他地域の大地震発生直後の記事

他地域の大地震発生直後に現れた日本海中部地震との比較記事の見出しを整理し表2に示す。下線は各記事のキーワードを示している。記事の内容は日本海中部地震の被害や教訓との比較、被害の原因となる地震現象の一般的比較解説が多く見られる。特に日本海中部地震から10年後に発生した1993年北海道南西沖地震直後に比較記事が最も多く掲載されている。地震ごとに異なる視点で報じられており、1993年釧路沖地震では液状化、1993年北海道南西沖地震では津波・隣接地域、1995年兵庫県南部地震では直下型、2003年十勝沖地震では津波、2011年東北地方太平洋沖地震では津波、2019年山形県沖地震では隣接地域が挙げられる。

表1 地震から15年以降の周年記事見出し一覧

周年	掲載月/日:秋田版の見出し []内は青森版の見出し
15 (1998年)	5/15:日本海中部地震から15年24日防災フォーラム能代などで 5/27:防災意識忘れないで日本海中部地震から15年、[本部長の知事が欠席日本海中部地震から15年県防災訓練]
16	5/27:10万人が防災訓練日本海中部地震から16年、[M7.3想定して地震災害訓練]
17	5/27:忘れないぞ日本海中部地震26日まで防災週間
18	5/27:惨劇風化させまい日本海中部地震から18年県民防災の日
19	5/27:県民防災の日初の薬品被害訓練も初動体制など確認

20 (2003年)	5/19:なまはげの姿で慰霊祭募金訴え日本海中部地震 20年 5/26:県きょう防災訓練化学物質流出の想定も、日本海中部地震から 20年万全か防災への取り組み 5/27:防災の誓い新た全県で訓練日本海中部地震から 20年 5/29:絶版でも残部を販売日本海中部地震体験記危機管理意識のなさ露呈副知事地震時パチンコ 7/1:災害への備え訴えた企画展きょうから秋田大で開催
21	5/27:津波犠牲者悼み海上慰霊祭男鹿で合川南小児童遺族ら
22	5/26:日本海中部地震から 22年県内災害への備蓄 3割 5/27:県民防災の日「直下型」想定し訓練県庁通報態勢を確認
23	5/27:大地震想定し訓練県庁で職員 300人参加県民防災の日
24	5/26:知事不在時に地震発生想定県防災訓練
25 (2008年)	5/26:備え万全ですか全県で避難訓練日本海中部地震 25年
26	5/27:各地で 26000人が訓練日本海中部地震から 26年「県民防災の日」 5/28:[深浦町防災の日町内一斉に訓練 26年前]
27	5/27:県民防災の日各地で訓練や慰霊祭
28	5/22:日本海中部地震から 28年 1)再起父をのんだ海支えに 5/23:日本海中部地震から 28年 2)再起父を救命瀬戸際の子次々抱え 5/24:日本海中部地震から 28年 3)封印心に秘めた「あの日」 5/26:祈りの歌「秋田おほら節」みんなに届け合川南小できょう最後の慰霊祭、津波想定し避難 訓練計画きょうから 5市町 5/27:日本海中部地震から 28年再建二重ローン乗り切る、「その日」に備えて県警津波対応に重 点県民防災の日、友へ届け鎮魂の民謡合川南小で慰霊祭日本海中部地震から 28年 5/28:日本海中部地震から 28年継承追悼のナマハゲ募金
29	4/23:[津波の恐怖風化防げ日本海中部地震から来月で 29年] 5/26:想定様々防災訓練県初めて噴火盛る
30 (2013年)	5/21:日本海中部地震から 30年庁舎水没想定し移転訓練にかほ署 5/25:自然災害に負けない親子で防災体験非常食試食や耐震実験あす大仙 5/25:津波の記憶忘れない日本海中部地震から 30年旧合川南小学校で慰霊祭、[過去の地震を資 料から学ぶ弘前大で企画展]、[津波忘れない日本海中部地震から 30年深浦で訓練] 5/27:13人の魂安らかに日本海中部地震 30年男鹿の海岸で慰霊祭 5/28:つなぐ備える震災の記憶上)息子の死生かされたか 5/29:つなぐ備える震災の記憶中)「減災」学ぶ運動会 5/30:つなぐ備える震災の記憶下)地域の被害語り継ぐ
31	5/27:津波は来た秋田にも 31年前・104人犠牲「日本海中部」を忘れるな
32	5/27:あの日を忘れない日本海中部地震 32年訓練や慰霊祭、[3000人参加深浦で訓練日本海中部 地震の教訓生かし防災]
33	5/27:震災風化させない日本海中部地震から 33年各地で慰霊祭や防災訓練
34	5/27:男鹿で追悼悲しみ新た日本海中部地震から 34年、[震度 6 強津波 9メートル想定し訓練深 浦町日本海中部地震 34年]
35 (2018年)	5/24:大震災想定県庁で防災訓練対策本部立ち上げ停電も実施 5/26:津波の教訓生かし備え日本海中部地震きょう 35年 5/27:遺族海に向かい合掌日本海中部地震から 35年
36	5/23:津波犠牲児童の慰霊碑に献花日本海中部地震 26日で 36年 5/25:地震・災害備え各地で訓練あす県民防災の日 5/27:日本海中部地震から 36年津波犠牲遺族が海岸で慰霊
37	5/20:津波で犠牲の児童思い清掃「静かに眠れるよう」日本海中部地震 5/27:「自分の命守る知識を」日本海中部地震から 37年
38	5/20:津波犠牲児童「忘れぬように」日本海中部地震 26日で 38年 5/26:日本海津波考上)白波ビデオが伝える衝撃日本海中部地震から 38年 5/27:海が奪った子今もまぶたに日本海中部地震 38年男鹿遺族ら焼香 5/28:日本海津波考中)多数の活断層地震を誘引日本海東縁部 10~20年おきに大地震 5/29:日本海津波考下)高台避難住民の手で改善東日本大震災きっかけに話し合い
39	5/26:来ないはずの津波義父奪った消えた 1キロ先の漁船日本海中部地震から 39年 5/27:津波で犠牲児童悼む日本海中部地震から 39年、[日本海中部地震 39年津波犠牲の児童悼む 海岸で遺族ら秋田・男鹿]

表2 他地域の大地震直後に現れた日本海中部地震との比較記事の見出し一覧

地震名	掲載月/日:本紙東京版の見出し 下線は記事のキーワード[]内は本文を示す
1993年1月15日 釧路沖地震	1/18:住宅街で「 <u>液状化現象</u> 」発生釧路沖地震 2/19:釧路沖地震での保険金支払い推定約8億円
1993年7月12日 北海道南西沖地震	7/13:北日本に強震・津波ホテル崩れ数十人不明北海道南西沖地震, 死者36人不明約100人北海道の地震被害広がる, 津波警報9時間も北海道南西沖地震, 津波に弱い海底地形奥尻島エネルギー増幅効果北海道南西沖地震, 早かった津波襲来震源近く地震の規模大北海道南西沖地震, <u>日本海中部地震に似た型規模では上回る?北海道南西沖地震</u> 7/14:この惨事は他人事ではない(社説)[津波による大きな被害は日本海中部地震以来], 観測・予知の空白区直撃北海道南西沖地震, 「日本海にプレート境界」を説明できる有力証拠に北海道南西沖地震, 震源域奥尻島直下近く現地視察の阿部東大教授北海道南西沖地震, すごい底鳴り大津波 耳に残る恐怖北海道南西沖地震, 「津波警報」で明暗北海道南西沖地震, 生と死「一瞬」が分ける直撃の奥尻島北海道南西沖地震[十年前の日本海中部地震の教訓が生死を分けるカギ] 7/15:津波の高さ10メートル超す気象庁調査官が確認北海道南西沖地震, 余震の島「去るか残るか」揺れる奥尻町民 北海道南西沖地震[十年前の日本海中部地震の時には床上浸水] 7/16:実態を反映しない津波観測低くでる検潮所の値独自工夫の自治体も, 激震・津波・火災予測越えた複合災害北海道南西沖地震の奥尻島, 長さ100キロ断面破壊わずか40秒北海道南西沖地震, 奥尻島の津波は最高30.5メートルに到達北海道南西沖地震
1995年1月17日 兵庫県南部地震	1/17:「直下型」の怖さまざまざ防災対策の再検討迫る兵庫県南部地震[1950年以降に死者が百人を超えた地震], 過去の主な地震被害兵庫県南部地震
2003年9月26日 十勝沖地震	9/27:「津波でんでんこ」で巨大地震(社説)
2011年3月11日 東北地方太平洋沖地震	3/12:太平洋岸繰り返す津波東日本大震災 3/25:津波の被害国内最悪死者・不明者は「明治三陸」超す東日本大震災
2019年6月18日 山形県沖地震	6/19:震えた街新潟・山形地震26人けが[一帯では過去に83年の日本海中部地震], 衝撃「ドン」長い揺れ住民避難不安な夜新潟・震度6強[この変動帯の近くでは過去に日本海中部地震が起きている] 6/20:余震・雨続く不安新潟・山形地震負傷28人[この領域では日本海中部地震などが起きている]

5. まとめ

1983年日本海中部地震について、発災から翌年以降の新聞記事を収集し、どのように変化し関心が高まるのか整理した。明らかにされた主な項目は以下の通りである。

- 1) 一般的に震災から10年以上経過すると記憶と教訓の風化が懸念されるが、10年単位の節目と他の大地震直後に関連記事が多くなる。
- 2) 本紙では一般的地震解説、他の地震との比較が多い。
- 3) 秋田県では日本海中部地震が発生した5月26日を「県民防災の日」と定めており、県民防災の日前後に関心が高まり地域面の記事が増加している。避難訓練が行われる周年記事は長期的、継続的に掲載されている。
- 4) 記事の内容は津波災害が圧倒的に多く、日本海中部地震により各地で発生した液状化現象、その他、建物の耐震性に関する記事に乏しい。

日本海中部地震は今年2023年に40周年となり、行政・市民レベルでも防災に関する関心が高まると思われる。津波災害に加え、地盤災害や建物の耐震化に関する情報・知識も提供していきたい。また、同様の収集・整理を長期間にわたって続けていきたい。

【参考文献】1) 朝日新聞社:朝日新聞クロスサーチ, <https://xsearch.asahi.com> (2022.11.3閲覧).